

## 早稲田大学 文化構想学部 世界史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	全体が「都市」をテーマとして構成されている。昨年は「人の移動」であった。どうやら、一つのテーマにそった出題というのが定着しそうである。昨年に比べるとかなり易しくなり、ほぼ一昨年の水準にもどった感がある。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔 〕	アジアの都市文明	設問2のウは「日常…」ではなく「祭器として使用」が正しい。日常の煮炊きには灰陶が使用された。	易
〔 〕	欧州における都市の役割	設問1のアも厳密には問題あり。アテネも最初は王政だった。しかし暗黒時代明けには貴族政治になっていたので一応は正しいとする。ウは「神話的」ではなく「合理的」が正しい。設問3のエのシトー会はベネディクトゥス会系修道院。この修道会が開墾に従事したことは15日の法学部でも出題されていた。	標準
〔 〕	オアシス都市	設問1のエの「東西交易路の支配権」は遊牧勢力が握ることが多かった。設問4のウの青海は新疆に含まれない。青海の服属については法学部でも出題されていた。	標準
〔 〕	ムスリム都市	記述式は基本事項のみ。設問4Dのイの「十進法とゼロの概念」はイランではなくインドから。Eのアのカーリー商人の活動は、16世紀ではなく11世紀から。	標準
〔 〕	中国の3都市	地図のみからの判定だと緊張を強いられるところだが、設問文中にはっきりとしたヒントが見出せるのでやさしい。図Aの北京の地図は重要。オリンピック関連で来年は頻出の可能性大。図Bは河川名から開封を連想する。図Cの長安は多くの教科書が載せている図。	易
〔 〕	ロンドン関連史	設問2のエ「コーヒーハウス」は近年あちこちで出題されている。設問3の「トマス＝クック」は用語集にもしっかり出ている人物。しかし、学習の流れからはずれがちなキャラクターのため意外に難しかったかも知れない。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
[ ]	歴史の舞台となった欧州の都市	設問3のドレスデンは独での2次大戦中の空襲被害を象徴する都市。ザクセンの首都というところにひっかかって考えすぎる必要はない。設問4のサミットは75年に開催されたのが最初。	標準
[ ]	東南アジアの都市	全問易しい。	易
[ ]	ベルリンの歴史	設問3のアインシュタインがベルリン大学で教鞭をとっていたかどうか。このへんを妙に疑ったりすると失敗する。ウのシュトレゼマンは政治家で論外。アのフロイトもナチスを避けて独を出た点は同じだが、亡命先は英。	標準

〔総合コメント〕

昨年に比べ易しい問題が目立つ。今年に限って言えば、教科書を満遍なく学習し、用語集で補足しておけば満点もねらえた。しかし、昨年との難易度の差は大きく、来年がどうなるかは予断をゆるさない。来年への備えとしては昨年並みのレベルを想定しておくべきだ。また、来年も一定のテーマにそった出題と思われるが、こういったテーマが予想するのは無理な話しである。ただ、世界史で一般的なテーマというのは、ありそうでそうないものである。世界史Aの教科書はテーマ設定が豊富なので一度目を通しておくとよいだろう。テーマのいかんにかかわらず、古代から現代、東洋から西洋まで幅広く出題されることは間違いない。不得意分野をつくらないことが肝要である。